

2024 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	間文化現象学研究センター
---------	--------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないできるだけわかりやすく記述してください。

2024 年度は、計画にもとづいて、以下の海外からの招聘者を含む講演会やシンポジウムを開催し、積極的な活動をおこなった。なお＊を付けた企画は、当初の計画にはなかったが新たに企画して開催したものである。

1・石原悠子&Steven A. Tainer, *Intercultural Phenomenology: Playing with Reality* 合評会(2024 年 6 月 16 日)＊

石原&Tainer 氏の英語の上記新刊書をめぐって、郭旻錫氏(京都大学人間・環境学研究科)と Romaric Jannel 氏(京都大学人文科学研究所および国際哲学コレージュ)が日本語で発表をし、石原悠子氏(立命館大学グローバル教養学部)が応答した。間文化現象学の可能性をめぐって大変興味深い議論がなされた。

2・国際シンポジウム「『われわれ』と『不気味な他者』——ハイデガー／デリダをめぐって——」(“We” and “The Uncanny Other”: on Heidegger/Derrida) (2024 年 7 月 5 日)

デリダとの親交をもった海外の著名な研究者を招聘し、サミュエル・ウェーバー氏(ノースウェスタン大学アヴァロン基金人文学教授)が「不気味な他者(まったき他者はけっしてまったく他者というわけではない)」を発表、ペター・バヤーニッチ氏(ベオグラード大学哲学教授)が「解体Ⅱ・ハイデガーにおける集団の構築——未来の戦争への序論」を発表した。

3・「メルロ＝ポンティ哲学研究の最前線」ベネデッタ・ザッカレロ(Benedetta Zaccarello)氏(フランス 国立科学研究所研究員)講演会(2024 年 7 月 6 日)＊

来日中のメルロ＝ポンティ研究者ザッカレロ氏をお招きして、メルロ＝ポンティ哲学研究の最前線について、講演会と質疑を行った。

4・国際ワークショップ「フッサール現象学から見たカント倫理学」(International Workshop:Kantian Ethics from the perspective of Husserlian Phenomenology) (2024 年 7 月 26 日)

ベルギーの若手研究者 Veronica Cibotaru 氏がオンラインで講演し、鈴木崇志氏(立命館大学文学部)と柳川耕平氏(立命館大学専門研究員)が英語で討議した。フッサール現象学をめぐる国際的な研究交流がなされた。

5・張燦輝写真展「大地の相」開催記念ワークショップ(2024 年 9 月 18 日)＊

平井図書館で上記写真展を開催した。それに合わせて、谷徹氏(立命館大学)が「大地と身体」、張燦輝氏(2012 年まで香港中文大学教授)が「写真の現象学」、張政遠氏(東京大学)が「無相の相」を発表し、写真をめぐって語り合った。

6・ワークショップ「ジャック・デリダの講義録『思考すること、それはノンと言うことである』を読む」(2024 年 11 月 30 日)＊

上記訳書をめぐって訳者の松田智裕氏をオーガナイザとし、小林敬氏(花園大学)、中谷碩岐氏(大阪大学大学院)、横田祐美子氏(横浜美術大学)という3名の研究者が発表と討議をおこない、初期デリダをめぐって議論した。

7・第4回東アジア間文化現象学会議(2025 年 2 月 20 日)

中国および韓国や国内の研究者を招き、方向紅(広州中山大学教授)、亀井大輔(立命館大学教授)、李恵京(ソウル大学准教授)、鄭晔瑞(広州中山大学教授)、鈴木崇志(立命館大学准教授)、Steve Lofts(南山宗教文化研究所研究員(ローチ基金研究員))、横地徳広(弘前大学准教授)、廖欽彬(広州中山大学教授)の各氏が発表して活発な国際交流を行なった。

また、『立命館大学人文科学研究所紀要』No.140(2024 年 12 月)において以下3点の活動成果を公表した。

小特集1・第3回東アジア間文化現象学会議

小特集2・脱構築の複数性

小特集3・ホワイトヘッド哲学の可能性—有村直輝著『生成の美と論理 ホワイトヘッドの形而上学』をめぐって—

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		林 芳紀	文学部	教授
運営委員		谷 徹	文学部	特任教授
		加國 尚志	文学部	教授
		伊勢 俊彦	文学部	教授
		亀井 大輔	文学部	教授
		永守 伸年	文学部	准教授
		鈴木 崇志	文学部	准教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		石原悠子	グローバル教養学部	准教授
		神島裕子	総合心理学部	教授
		長澤麻子	文学部	教授
		日暮雅夫	産業社会学部	特任教授
学内の 若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	酒井 麻依子	衣笠総合研究機構	助教
		松田 智裕	衣笠総合研究機構	専門研究員
		有村 直輝	衣笠総合研究機構	専門研究員
		柳川 耕平	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシ スタント			
	大学院生	若杉直人	文学研究科	博士課程後期課程
		堀内智吉	文学研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)		田邊正俊	文学部	非常勤講師
		青柳雅文	文学部	非常勤講師
		浅沼光樹	文学部	非常勤講師
		神田大輔	文学部	非常勤講師
		松葉祥一	文学部	授業担当講師
		宮原優	文学部	授業担当講師
客員協力研究員		Cibotaru Veronica	Institute of Philosophy, KU Leuven (ルーベンカトリック大学高等哲学研究所)	Visiting Lecturer,

	ファヨル入江容子	甲南大学	講師
	宮崎裕助	専修大学	教授
	西山雄二	東京都立大学	教授
	郷原佳以	東京大学	准教授
	伊藤 潤一郎	新潟県立大学	講師
	黒岡佳砦	中国福建省・福州大学	副教授
	小西真理子	大阪大学	准教授
	佐藤勇一	大東文化大学	准教授
	MichelDALISSIER	金沢大学	准教授
	赤阪辰太郎	独立行政法人日本学術振興会	特別研究員 PD
	丸橋裕	京都大学	非常勤講師
	川崎唯史	東北大学病院	特任講師
	本郷均	東京電機大学	教授
	中澤瞳	日本大学	准教授
	川瀬雅也	神戸女学院	教授
	吉川孝	甲南大学	教授
	佐藤愛	日本学術振興会(青山学院大学)	特別研究員 RPD
	松葉類	京都芸術大学	非常勤講師
	廣瀬 浩司	筑波大学	教授
	神崎宣次	南山大学	教授
	藤木篤	芝浦工業大学	准教授
	紀平知樹	兵庫県立大学	教員
	池田喬	明治大学	教授
	佐々木拓	金沢大学	教授
	中澤栄輔	東京大学	講師
	杉本俊介	慶應義塾大学	准教授
	廖欽彬	中国・中山大学哲学系	専任教授
	ジャンネル ロマリク	Collège international de philosophie・(「国際哲学コレージュ」)	Directeur de programme
	古怒田望人	工学院大学	非常勤講師
	丹羽一晃	間文化現象学研究センター	客員協力研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)			
センター構成員 計54名 (うち学内の若手研究者 計 6名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2025年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	谷 徹	哲学史入門Ⅲ	共著	2024年6月	NHK出版	編者：斎藤哲也共著者：飯田隆、清家竜介、宮崎裕助、國分功一郎	PP. 29-74
2	Toru Tani	<i>Interkulturelle Phänomenologie – Georg Stengers Werk im Gespräch</i>	共著	2024年	Verlag Karl Alber	編者：Murat Ates, L'ubomir Donaj 共著者：多数	PP. 245-265
3	谷 徹	共同研究 共生（続）——SDGsと次世代への視座	共著	2025年3月	公益財団法人日独文化研究所、現代思潮新社	共著者：多数	PP. 120-128, PP. 129-152, PP. 212-235
4	古怒田望人	『クィア・レヴィナス』	単著	2025年3月	青土社	なし	PP. 1-232
5	伊藤潤一郎	国際地域学の課題——Crisis and Transformation	共著	2024年5月	小島遊書房		PP. 44-49
6	伊藤潤一郎	日本の大衆文化はなぜ「終末」を描くのか—漫画、アニメ、音楽に観る「世界の終わり」	共著	2024年10月	P ヴァイン		PP. 183-186
7	中澤栄輔	Jin (Benevolence): End-of-life care in Japanese clinical settings	共著	2024年	<i>In Alternative virtues: Japanese perspectives on Christian and Confucian traditions and education.</i> Routledge	立花幸司	PP. 122-138
8	宮崎裕助	読むことのエチカ——ジャック・デリダとポール・ド・マン	単著	2024年5月	青土社		PP. 1-426
9	宮崎裕助	哲学史入門Ⅲ——現象学・分析哲学から現代思想まで	共著	2024年6月	NHK出版	斎藤哲也編	PP. 138-248
10	池田喬	「嘘をつく」とはどういうことか——哲学から考える（ちくまプリマー新書 479）	単著	2025年1月	筑摩書房		PP. 1-240
11	池田喬	認識的不正義ハンドブック：理論から実践まで	共著	2024年11月	勁草書房	佐藤邦政、神島裕子、榎原英輔、三木那由他編	PP. 147-166
12	池田喬	ドイツ哲学入門	共著	2024年10月	ミネルヴァ書房	鹿島徹・川口茂雄・佐藤慶太・渡辺和典編	PP. 315-324
13	吉川孝	認識的不正義ハンドブック：理論から実践まで	共著	2025年11月	勁草書房	ミツヨ・ワダ・マルシアーノ編	PP. 214-230
14	吉川孝	映像アーカイブ・スタディーズ	共著	2025年1月	法政大学出版局	佐藤邦政、神島裕子、榎原英輔、三木那由他編	PP.473-493
15	鈴木崇志	フッサール入門	単著	2025年3月	筑摩書房		PP. 1-282
16	伊藤潤一郎	泥棒！——アナキズムと哲学	共訳	2024年7月	青土社	カトリース・マラブー（著）、吉松寛、横田祐美子（共訳）	第1章、第2章、第9章、結論、全体のエピグラフ、謝辞
17	酒井麻依子	〔翻訳〕女の子のための西洋哲学入門：思考する人生へ	共訳	2024年11月	フィルムアート社	メリッサ・M・シューキンバリー・K・ガーチャー（編）、三木那由他、西條玲奈（監訳）、青田麻未、安倍里美、飯塚理恵、鬼頭葉子、木下頌子、	PP. 65-86, 515-540

						権瞳, 酒井麻依子, 清水晶子, 筒井晴香, 村上祐子, 山森真衣子, 横田祐美子 (共訳)	
18	柿木伸之	〔翻訳〕ハインレ詩文集	単訳	2025 年 2 月	月曜社	クリストフ・フリードリヒ・ハインレ (著), ヨハネス・シュタイツィンガー (編)	PP. 1-352
19	宮崎裕助	〔翻訳〕『この生——世俗的信と精神的自由』	共訳	2024 年 9 月	名古屋大学出版会	マーティン・ヘゲルンド (著), 木内久美子, 小田透 (共訳)	PP. 1-342
20	松葉祥一	『共同の未来』	監訳	2024 年 4 月	法政大学出版局	ジャン＝リュック・メラシオン (著), 飛幡祐規・ジャック＝マリ・ピノー・堀晋也 (共訳)	
21	永守伸年	〔翻訳〕信頼と不信の哲学入門	共訳	2024 年 12 月	岩波書店	キャサリン・ホーリー (著), 稲岡 大志, 杉本 俊介, 杉本, 俊介 (共訳)	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Romarc Jannel	En deçà et au-delà du logos avec Yamauchi Tokuryū	単著	2024 年 6 月	<i>Philosophie</i> , 162 (3)		PP. 113-123	有
2	Romarc Jannel	Sugimura Yasuhiko : « "Le corps 'auto-éveillant' : ce qui ressort de l'appréciation nishidienne de Maine de Biran" »	共著	2024 年 6 月	<i>Philosophie</i> , 162 (3)	翻訳	PP. 58-74	有
3	Romarc Jannel	Miki Kiyoshi : « L'humain et l'environnement »	共著	2024 年 6 月	<i>Philosophie</i> , 162 (3)	翻訳	PP. 35-42	有
4	Romarc Jannel	Présentation du dossier	単著	2024 年 6 月	<i>Philosophie</i> , 162 (3)		PP. 33-34	有
5	Romarc Jannel	山内得立(1890-1982 年)の哲学——東西思想の包括的乗り越えの試み——	単著	2024 年 6 月	『人文学報』、第 122 号		PP. 475-493	有
6	Romarc Jannel	西田幾多郎と鈴木大拙の思想における「即」・「即非」概念の差異に関する一考察	単著	2024 年 8 月	『求真』、第 29 号		PP. 189-208	有
7	Romarc Jannel	「哲学受容の三段階 廖欽彬編著、河合一樹編著『危機の時代と田辺哲学—田辺元没後 60 周年記念論集』	単著	2024 年 8 月	『求真』、第 29 号		PP. 303-307	有
8	Romarc Jannel	Environmental philosophy in Asia: Between eco-orientalism and ecological nationalisms	共著	2024 年 9 月	<i>Environmental Values</i> , 34 (1)	Lajna Droz 等共著	Online	有

9	Romarc Jannel	Variété des regards : autour des deux poèmes japonais de Paul Mus (1963)	単著	2025 年 1 月	<i>Bulletin de la Société des Amis de Paul Mus</i> , 5			無
10	Naoki Arimura	Whitehead and Victorian Philosophy of Science: A Historical Investigation of the Concept of Hypothesis	単著	2024 年 6 月	De Gruyter, <i>Human Affairs</i> , vol. 34, no. 3		PP. 393–407	有
11	有村直輝	楳田的な思弁 : 『生成の美と論理』に対する 4 問とコメントへの応答	単著	2024 年 11 月	立命館大学人文科学研究所、『立命館大学人文科学研究所紀要』、140 号		PP. 193–215	有
12	谷 徹	大地と身体	単著	2014 年 4 月	石川県西田幾多郎哲学記念館、『Formless Form 無相の相』	企画：張燦輝、張政遠 共著者：多数	PP. 26–29	無
13	K. Yanagawa,	On concepts of action and behavior as the implicit point of agreement between Enactivism and Radical Behaviorism	共著	2025 年 1 月	Springer, “Asian Journal of Philosophy” 4(18)	H. Matsui		有
14	柳川耕平	歴史の統一性について	単著	2025 年 3 月	フッサール研究会、『フッサール研究』第 22 号		PP. 73–96	無
15	伊藤潤一郎	ネグリとナンシー——コモンをめぐる——	単著	2024 年 5 月	青土社、現代思想、52 巻 7 号		PP. 235–245	無
16	伊藤潤一郎	色のクオリアと証言	単著	2024 年 11 月	日本色彩学会、色彩学、3 巻 4 号		PP. 179–182	無
17	伊藤潤一郎	子どものいない脱構築	単著	2024 年 11 月	立命館大学人文科学研究所、立命館大学人文科学研究所紀要、140 号		PP. 109–123	有
18	伊藤潤一郎	喜劇としてのアナキズム	単著	2025 年 3 月	青土社、現代思想、53 巻 3 号		PP. 180–192	無
19	中澤栄輔	The Consciousness of Virtue: Uncovering the gaps between specialists and the general public in their understanding of virtue in Japan	共著	2024 年	<i>Frontiers in Psychology</i> 14	立花幸司		有
20	中澤栄輔	Neuroethics Rounds: Place-Sensitive Approaches for Daily Interfaces of Neuroscience-Neuroethics Ecosystems	共著	2024 年 11 月	<i>The Lancet</i> 404(10466)	稲生宏泰、瀧本禎之	1922–1923	有
21	中澤栄輔	AI と医療倫理	単著	2024 年 10 月	腎と透析 97(4)		PP. 547–551	無
22	宮崎裕助	快原理の彼岸における権力欲動と郵便原則——ジャック・デリダによる「死の欲動」のテレオポイエーシス	単著	2024 年 10 月	岩波書店、『思想』、1207 号		PP. 223–242	無
23	宮崎裕助	言説のうち／縁で感覚的なものを救うこと——リオータル『言説、形象』のヘーゲル批判とその展開	単著	2025 年 2 月	東京都立大学、『リミトロフ』、8 号		PP. 4–12	無
24	宮崎裕助	〔翻訳〕サミュエル・ウェーバー「その名	単訳	2025 年 3 月	専修大学、『生田哲学』、26 号		PP. 69–84	無し

		以前の脱構築——脱構築とベンヤミンの『暴力批判論』をめぐるいくつかの予備的な覚え書						
25	西山雄二	他者に委ねられた、自分のものではない秘密——ジャック・デリダの脱構築と秘密	単著	2024 年 10 月	『思想』1207 号		PP. 138-154	有
26	池田喬	日常的なものの現象学と言語の限界の経験 一拙書『ハイデガー『存在と時間』を解き明かす』に対する問いへの応答	単著	2024 年 4 月	ハイデガー研究会、『Zuspiel』、7 号		PP. 31-45	無
27	柿木伸之	想像の解放による救済へ——ベンヤミンのイメージの美学の射程	単著	2024 年 4 月	形象論研究会、形象、6 号		PP. 15-36	無
28	松葉祥一	崇高の美学とその政治的位相——ランシエールのリオータル批判	単著	2025 年 3 月	東京都立大学西山雄二研究室、Limitrophe、no. 8	宮崎裕助・西山雄二責任編集	PP. 56-70	無
29	Junko Shogaki, Atsuko Fukuda, Shoichi Matsuba, Nao Saito, Ikuko Miyawaki	Lived Bodily Experience of Worsening Heart Failure from Acute Exacerbation to Recovery: A Phenomenological Study	共著	2024 年	Kobe Journal of Medicine, no. 2		PP. 46-55	有
30	鈴木崇志	フッサール『改造』論文における「人間」概念：日本哲学との比較研究	単著	2024 年 11 月	立命館大学人文科学研究so紀要、第 140 号		PP. 29-57	有
31	加國尚志	スティル、アンガジュマン ーブルーストを読むメルロ＝ポンティ	単著	2024 年 9 月	メルロ＝ポンティ研究、第 28 号		PP. 47-62	無
32	丸橋 裕	ヴィクトア・フォン・ヴァイツゼカーの場合	単著	2025 年 3 月	日独文化研究所、年報『文明と哲学』、第 17 号		PP. 81-100	無
33	亀井大輔	デリダとベンヤミンの脱構築——妥協としての正義——	単著	2024 年 10 月	『思想』1207 号		PP. 207-222	無
34	亀井大輔	テキストの自己伝承——デリダにおける遺産相続の問題——	単著	2024 年 11 月	『立命館大学人文科学研究so紀要』140 号		PP. 3-26	有
35	亀井大輔	九鬼周造与德里达：偶然性与事件	単著	2024 年 12 月	広西大学『文化与传播』第 13 卷(第 6 期)		PP. 10-18	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	青柳雅文	はざままで往き来する思考——若きホルクハイマーの哲学思想	2024 年 11 月	社会思想史学会 第 49 回大会、セッション A 「批判理論」の成立過程：初期ホルクハイマーにそくして、東北大学	楠秀樹、上野成利、細見和之
2	堀内智吉	デュルケム道徳論の倫理的意義——善と義務の調和を目指して	2024 年 11 月	関西倫理学会 南山大学	
3	Romarc Jannel	Conceptions marxiennes des philosophes japonais	2024 年 6 月	Séminaire « L'éventail des marxismes », Université Paris 8	

4	Romarc Jannel	日本文化における「縁起」概念——日常から哲学へ——、『海外から見た日本文化を学ぶ講座』	2024 年 6 月	『海外から見た日本文化を学ぶ講座』、大阪府高齢者大学校	
5	Romarc Jannel	タイトルなし	2024 年 6 日	『悠子 & Steven A. Tainer, Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 合評会』立命館大学	
6	Romarc Jannel	Vie, expérience et transformation du monde chez Miki Kiyoshi	2024 年 7 月	『生とは何の謂いか』(Qu'appelle-t-on vie ?)	
7	Romarc Jannel	京都学派の哲学者・山内得立	2024 年 7 月	『近世・近代の思想研究会』、奈良県立大学	
8	Romarc Jannel	田辺元と山内得立の「縁起」概念	2024 年 8 月	『田辺元生誕 140 周年記念シンポジウム』、京都大学	
9	Romarc Jannel	L'architecture prélogique et logique du cosmos. Approche interculturelle	2024 年 10 月	Séminaire « En deçà de la vie ? Vers une philosophie interculturelle », Collège international de philosophie	
10	Romarc Jannel	Les mots de l'éducation au Japon. Une approche philosophique	2024 年 11 月	Société francophone de philosophie de l'éducation/Collège international de philosophie	
11	Romarc Jannel	環境危機と社会の理解 ～今西錦司の思想から学ぶ～	2024 年 11 月	『地球システム・倫理学会第 20 回学術大会』、総合地球環境学研究所	
12	Romarc Jannel	Environmental Crisis and Society: Some Reflections Based on Imanishi Kinji's Theories	2024 年 12 月	Verein für Komparative Philosophie und Interdisziplinäre Bildung „KoPhil“ Vortragsreihe: „Buddhism in Dialogue with the Contemporary Sciences, University of Vienna	
13	Romarc Jannel	タイトルなし	2025 年 1 月	『Season Lao 「虚室・生白」をめぐる芸術と哲学の対話』、東京大学東アジア藝文書院 (EAA)	
14	Romarc Jannel	En deçà de la vie : l'éventail des néants	2025 年 3 月	Séminaire « En deçà de la vie ? Vers une philosophie interculturelle », Collège international de philosophie	
15	Naoki Arimura	The Concept of Imagination and Its Role in Bosanquet's and Whitehead's Philosophical Methods	2024 年 10 月	Whitehead and Idealism: International Online Conference, Bucharest, Romania (online)	
16	有村直輝	ホワイトヘッド「自由と秩序」草稿における想像力の概念について——ロマン主義的系譜との距離	2024 年 12 月	日本ホワイトヘッド・プロセス学会第 46 回大会、京都	
17	谷 徹	「大地と身体」プロローグ	2024 年 9 月	立命館大学間文化現象学研究センター、人文科学研究所、張燦輝先生写真展「大地の相」開催記念ワークショップ	張燦輝、張政遠
18	柳川耕平	空腹がもたらすリズム	2024 年 6 月	日本時間学会第 16 回大会、愛知淑徳大学	
19	柳川耕平	生を律する時間——フッサール現象学の視座から	2024 年 8 月	「社会の時間」研究会 2024 年度夏公開研究会、オンライン開催	
20	柳川耕平	衝動の時間的性格について	2024 年 11 月	日本現象学会第 46 回研究大会、北海道大学	
21	伊藤潤一郎	色のクオリアと証言	2024 年 6 月	日本色彩学会 第 55 回大会	
22	伊藤潤一郎	生殖の脱超越論化——スピヴァクとともに	2024 年 11 月	社会思想史学会 第 49 回大会	
23	中澤栄輔	ELSI への取り組みと患者・市民参画そして気づき	2025 年 3 月	ELSI Hiroshima ワークショップ 2025. 於広島大学	
24	宮崎裕助	ライナー・シュールマンを導入する——その思想の全体像	2024 年 4 月	明治大学 MIPs 研究集会「ライナー・シュールマンの哲学——ハイデガーとアナーキーの原理を中心に」	
25	Yusuke Miyazaki	Blindness and Insight of Reading: Deconstruction Between Jacques Derrida and Paul de Man	2024 年 6 月	8th Derrida Today Conference	

26	宮崎裕助	弁解機械と読むことのエチ カ——告白をめぐるルソー とデリダ／ド・マンの問い	2024 年 7 月	第 46 回 新潟哲学思想セミナー	
27	宮崎裕助	離接的偶然と責任の問いー ー九鬼、檜垣、デリダ	2024 年 12 月	脱構築研究会、専修大学哲学会	
28	宮崎裕助	言語のうち／縁で、いかに して感覚的なものを救済す るか——リオータル『言説、 形象』のヘーゲル批判とそ の展開	2024 年 12 月	脱構築研究会、専修大学哲学会	
29	宮崎裕助	いまここにある平和から始 めること——カントとデリ ダの歓待論	2025 年 2 月	脱構築研究会	
30	西山雄二	The Boundary of Secret, Reading Jacques Derrida's Répondre du secret	2024 年 6 月	講演会、Sofia University "St. Kliment Ohridski"	
31	西山雄二	Deconstruction as the Thinking of Secret	2024 年 11 月	After-words/After-worlds. The Legacy of Jacques Derrida, University of Silesia in Katowice	
32	西山雄二	The Creative and Sinister Power of Lying: The Philosophy and Politics of Falsehood	2025 年 3 月	Creation, the World: Ends, Beginnings, New Bulgarian University	
33	Takashi Ikeda	Epistemic Injustice and Phenomenology	2024 年 5 月	On Human Dignity: From Phenomenological Perspective, Kokugakuin University	
34	池田喬	存在の意味への問いがなぜ 今こそ重要なのかーハイ デガー『存在と時間』刊行 100 周年を迎えるための準 備作業ー	2024 年 7 月	第 46 回フッサールイベント、東北大学	
35	吉川孝	違法とされるブルーフィル ムー21 世紀のシークレ ット・ミュージアムー	2025 年 1 月	『映像アーカイブ・スタディーズ』 Book Launching Symposium	
36	吉川孝	フッサール哲学における自 伝的なもの——『改造』論 文に滲み出ているかもしれ ない「個人的なエートス」 について——	2025 年 3 月	フッサール研究会	
37	佐藤愛	『精神分析の系譜』再読ー ー失われた始源から喪失に よる生へ	2024 年 6 月	日本ミシェル・アンリ哲学会 第 16 回 大会	
38	酒井麻依子	身体を着替える：介助の現 象学試論	2024 年 11 月	日本現象学会、北海道大学	油田優衣
39	酒井麻依子	経験を言葉にもたらすこと ー 言語の権力	2024 年 7 月	社会芸術学会シンポジウム「言語と社 会」、専修大学	
40	松葉祥一	われわれは何を見せられて いるのか、いつまで見せら れるのか	2024 年	脱構築研究会 (10 周年ミーティング)、 早稲田大学戸山キャンパス	
41	鈴木崇志	思い込みと出会い：廣松渉 とフッサールの他者論の比 較	2025 年 2 月	第 4 回東アジア間文化現象学会議、立 命館大学	
42	石原悠子	Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 著 者紹介	2024 年 6 月	『石原悠子 & Steven A. Tainer, Intercultural Phenomenology: Playing with Reality 合評会』, 立命館 大学	
43	若杉直人	ジョルジュ・バタイユの方 法論ー演劇化と弁証法の 交差	2024 年 9 月	日仏哲学会 (2024 年秋季大会大会)	
44	亀井大輔	九鬼周造と哲学的ナショナ リズム——〈翻訳〉の視点 から	2024 年 5 月	中日の近代哲学・思想の交差とその実 践 第七回共同研究会、京都大学人文科 学研究所	
45	亀井大輔	デリダのハイデガー読解に ついて——『ハイデガー講	2024 年 5 月	第 96 回関西ハイデガー研究会、大阪大 学	

		義』以後の変遷を辿る			
46	亀井大輔	Deconstructions of Derrida/Benjamin: Justice as Compromise	2024 年 9 月	2024 International conference on Conflicts and Reconciliation、国立中山大学（台湾）	
47	亀井大輔	九鬼周造『偶然性の問題』第3章・第9節「偶然性の時間性格」の問題	2024 年 12 月	第2回「日本哲学の脱構築」ワークショップ・九鬼周造『偶然性の問題』を読む、専修大学	
48	亀井大輔	デリダとガダマーの「ハイデルベルク会談」（1988）を読む	2024 年 12 月	ガダマー協会第2回大会シンポジウム「テキスト」の可能性——脱構築と解釈学」、上智大学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	石原悠子 & Steven A. Tainer, <i>Intercultural Phenomenology: Playing with Reality</i> 合評会	立命館大学	2024 年 6 月	30 名	
2	国際シンポジウム「『われわれ』と「不気味な他者」——ハイデガー／デリダをめぐる——」	立命館大学	2024 年 7 月	50 名	脱構築研究会
3	「メルロ＝ポンティ哲学研究の最前線」ベネデッタ・ザッカレロ氏講演会	立命館大学	2024 年 7 月	30 名	
4	国際ワークショップ「フッサール現象学から見たカント倫理学」	オンライン	2024 年 7 月	30 名	
5	張燦輝写真展「大地の相」開催記念ワークショップ	立命館大学	2024 年 9 月	30 名	
6	ワークショップ「ジャック・デリダの講義録『思考すること、それはノンとすることである』を読む」	立命館大学	2024 年 11 月	70 名	
7	第4回東アジア間文化現象学会議	立命館大学	2025 年 2 月	40 名	中山大学哲学系
8	SEASON LAO「虚室・生白」西田幾多郎記念哲学館 インスタレーション・パフォーマンス	西田幾多郎記念哲学館	2024 年 12 月	100 名	京都大学、東京大学、Collège international de philosophie
9	Rivers and Mountains in Asian Environmental Philosophies	Symposium of the Network of Asian Environmental Philosophy	2024 年 11 月	50 名	Network of Asian Environmental Philosophy
10	Séminaire «La philosophie et la question nationale» (Héctor G. Castaño 共催)	Collège international de philosophie Online	2024 年 11 月 3 ~5	10 名	京都大学 国立中山大學（台湾）
11	Séminaire «En deçà de la vie ? Vers une philosophie interculturelle»	Collège international de philosophie Online	2024 年 11 月 ~2025 年 3 月	50 名	京都大学 中国人民大学 Université de technologie de Compiègne
12	サミュエル・ウェーバー「応答と呼びかけ——他者との交渉」ワークショップ	東京大学駒場キャンパス	2024 年 7 月	30 名	専修大学、脱構築研究会
13	第2回「日本哲学の脱構築」ワークショップ「九鬼周造『偶然性の問題』を読む——離散的偶然を中心に」	専修大学生田キャンパス	2024 年 12 月	50 名	専修大学哲学会、脱構築研究会
14	ジャン＝フランソワ・リオータル生誕 100 年シンポジウム——『言説、形象（ディスクール、フィギュール）』を読む	専修大学生田キャンパス	2024 年 12 月	40 名	専修大学、脱構築研究会
15	【研究集会】ライナー・シュールマンの哲学—ハイデガーとアナーキーの原理を中心に	明治大学・和泉キャンパス	2024 年 4 月	40 名	明治大学文学部哲学専攻 Meiji Institute of Philosophies (MIPs)主催
16	【ワークショップ】子どものための哲学（P4C）における認識的不正義	明治大学・和泉キャンパス	2024 年 7 月	30 名	明治大学文学部哲学専攻 Meiji Institute of Philosophies (MIPs)主催
17	第6回九鬼周造記念シンポジウム	甲南大学	2024 年 8 月	24 名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	有村直輝	第 13 回国際ホワイトヘッド会議（IWC）参加報告	『プロセス思想』、24 号、pp. 53-56	2014 年 4 月～9 月
2	谷 徹	哲学と精神医学が出会うとき	公益財団法人日独文化研究所、哲学講座 第 1 講、第 6 講	2024 年 6 月～8 月
3	谷 徹	唯一性と応答性——自然と文化の現象学	立命館大学衣笠総合研究機構、立命館大学土曜講座	2025 年 2 月
4	柳川耕平	【男女共同参画・若手研究者支援 WG 主催ワー クショップ】「出産育児とキャリア形成：親になることと研究・教育 活動」 「子育てと研究の一事例」	北海道大学	2024 年 11 月 17 日
5	柳川耕平	2024 年度夏公開研究会 現代人の生と時間 第一報告要旨 「生を律する時間——フッサール現象学の視座から——」	『綜合文化』(1) 164-165 頁	2025 年 3 月（公刊）
6	伊藤潤一郎	連載 睡眠を哲学する	集英社新書プラス 計 5 回掲載	2024 年 10 月～2025 年 3 月
7	宮崎裕助	母語の狂気から他者の単一言語使用へ——ジャック・デリダの（非）フランス（現代）思想入門	人文会ニュース、第 147 号	2024 年 8 月
8	西山雄二	ドキュメンタリー映画と講演 哲学者ジャック・デリダ——思考の勇氣	日仏会館・恵比寿	2025 年 2 月
9	吉川孝	自伝——カヴァレルのように哲学する	スタンリー・カヴァレルからはじめる書棚散策（ブックレット／フィルカル編集部）	2024 年 8 月
10	松葉祥一訳	リオータル×ロゴザンスキー「思想警察」	Limitrophe（東京都立大学西山雄二研究室紀要）、No. 8（宮崎裕助・西山雄二責任編集）	2025 年 3 月、pp. 35-44
11	松葉祥一作成	リオータル書誌	Limitrophe（東京都立大学西山雄二研究室紀要）、No. 8（宮崎裕助・西山雄二責任編集）	2025 年 3 月、pp. 134-152
12	鈴木崇志	フッサール現象学入門	早稲田大学エクステンションセンター公開講座、オンライン（全 3 回）	2025 年 2～3 月
13	丸橋 裕	哲学と精神医学が出会う時——ヴィクトア・フォン・ヴァイツゼッカーの場合	日独文化研究所	2024 年 7 月 5 日
14	亀井大輔	2024 年度初春哲学講座「ジャック・デリダの思想——ハイデガーとの関係を中心に」	日独文化研究所、全 6 回の講師を担当	2025 年 2 月～2025 年 4 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1					

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	青柳雅文	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
2	Romarie Jannel	京都学派の哲学と「主観・主体／自然・環境」の四概念	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
3	有村直輝	19～20 世紀イギリスにおける想像力論の系譜：ホホワイトヘッド哲学を参照点として	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
4	柳川耕平	食欲現象の現象学的・時間論的検討	若手研究	2023 年 4 月	2025 年 3 月	代表
5	伊藤潤一郎	色覚多様性から挑む色のクオリアの性質	挑戦的研究(萌芽)	2023 年 6 月	2025 年 3 月	分担
6	伊藤潤一郎	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
7	中澤栄輔	健康危機における資源配分および保健医療・福祉サービス水準の調整に関する研究	基盤研究(B)	2012 年 4 月	2025 年 3 月	分担

8	宮崎裕助	共通感覚の公共的機能の研究を基盤とした「テレパシー共同体論」の構築	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
9	宮崎裕助	ジャック・デリダの脱構築思想にもとづく「歓待」の学際的・国際的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
10	西山雄二	ジャック・デリダの脱構築思想にもとづく「歓待」の学際的・国際的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	代表
11	池田喬	ケア実践の現場における「対話」を倫理的・法的に基礎づけるための研究	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
12	柿木伸之	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究 B	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
13	吉川孝	ポルノグラフィのアーカイブに関する倫理学的研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
14	吉川孝	デジタル映像アーカイブの未来研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2025 年 3 月	分担
15	佐藤愛	母子の情動に関する思想史的研究	特別研究員奨励費	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
16	佐藤愛	スラヴォイ・ジジエク思想基盤の解明：ヘーゲル、ラカン解釈を中心に	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
17	酒井麻依子	マジョリティ性の現象学	若手研究	2024 年 4 月	2029 年 3 月	代表
18	鈴木崇志	「二人称の他者」の現象学：その形成史と現代的意義の研究	若手研究	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
19	亀井大輔	20 世紀フランス思想におけるハイデガーとベンヤミンの受容史の解明	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
20	亀井大輔	ジャック・デリダの講義録「責任の問い」の思想史的研究と国際的研究基盤の構築	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	分担
21	加國尚志	フランス実存主義哲学の日本での受容についての基礎的研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2025 年 3 月	代表
22	永守伸年	「信頼の多層モデル」に基づく道徳の規範性の解明	若手研究	2022 年 4 月	2026 年 3 月	代表
23	永守伸年	ヘイトスピーチからホープスピーチへ：未来志向の言論空間を探る	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	分担
24	石原悠子	東アジア哲学の国際的研究拠点の形成	基盤研究(B)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	分担
25	林 芳紀	スポーツ倫理学における相互主義の批判的考察：スポーツ規範理論の構築に向けて	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
26	石原悠子	京都学派における「遊びの哲学」の可能性——西洋近現代の遊びの哲学との比較研究	若手研究	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
27	神島裕子	ロールズの国際正義論における国家主義と倫理学的方法	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
28	日暮 雅夫	批判理論からの新自由主義と権威主義との批判	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
29	松田 智裕	19 世紀の哲学教育論と戦後フランスの教育改革運動に関する思想史的研究	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	中澤栄輔	ヒト脳改変の未来に向けた実験倫理学的 ELSI 研究方法論の開発	JST・RISTEX・科学技術の ELSI への包括的実践プログラム（RInCA）プロジェクト	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
2	中澤栄輔	脳神経倫理に関する支援と研究開発	日本医療研究開発機構 脳神経科学統合プログラム(個別重点研究課題)	2024 年 12 月	2030 年 3 月	代表
3	永守伸年	対話システムに対するトラスト形成阻害要因の特定および抑制技術の研究開発	国立研究開発法人科学技術振興機構	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国
1								